

教育目標 : ○みずから学び 創造する	○心豊かに 互いを尊重する	○健康で たくましく生きる
めざす学校像 : ○学ぶ喜びが実感できる学校	○ふれあう喜びがあふれる学校	○夢を育む学校
めざす生徒像 : ○瞳輝く生徒	○深く考える生徒	○希望に満ちた未来を創る生徒
めざす教師像 : ○教育に対する熱意と使命感に富む教師	○一人一人の良さや可能性を引き出せる教師	○研修意欲に富みお互いに高め合う教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	今後の課題	学校関係者評価記入欄
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)		
学力の向上	学ぶ楽しさ、わかる喜びが実感できる授業を工夫し、確かな学力の向上を図る	ICT機器の活用や小学校教員との連携を通して、「分かる授業」、「楽しい授業」を実践するとともに、言語活動を工夫して「深く考える授業」を実践する	自分の考えなどをしっかり伝え合う活動を単元の中に位置づける	/	3	/	4	ペアワークやグループワークなどの対話的な学習形態を積極的に授業に取り入れる。さらにグループの人数も4人程度のグループにすることによって生徒が活動に参加する意識を高める。教員が言語活動の充実を意識した授業計画立て実践していくことが課題である。	小学校ではすでに4人グループでの活動を取り入れている。また、教科での指導においても4人グループは効果があると言われており、子どもにとってプラスに作用している。4人グループでやりたいのか、やるのかどちらの立場で進めていくのか、またどのように教科に広めていくのかを明らかにして、小中連携の視点も含めて授業改善を進めていく必要がある。
			各教科で、学習のねらいを明確にし、本時の目標を示して授業を展開するとともに、授業の振り返りを必ずさせる	4 [4]	4 [3]	4 [3]	4 [3]	教員の意識の高さほど生徒の実感は高くないので、まだまだ生徒は意識できていないと考えられる。学習のねらいを明確に示すこと、それを意識して取りまわせること、意図的・計画的に授業の振り返りを行うこと。この三点を生徒の意識にも浸透させる実践を積んでいくことが課題である。	生徒と教員のギャップは何が原因なのか読み取りにくい、ねらいの提示については授業の始めにあるのでほどこしていいことが多いのではないかと。小学校では授業の最後に「わかりましたか」で終わってしまうこともあったが、今では類似問題を解いてみて習得できたかどうか確認している。振り返りが意識できる方法を考えてもらいたい。
豊かな人間性を育む	多くの人とふれあいながら、自己肯定感を高め、他を思いやる心や感動する心などを育み、夢と希望をもって生きる生徒を育てる	学級活動を充実させるとともに、特別支援学級や異学年との交流などを通して、思いやりの心を育み、いじめのない学校にする	「第二中学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを早期に発見し、迅速に指導する	4 [4]	4 [4]	4 [3]	4 [3]	人権に関する研修を踏まえ、教員の人権意識を高めていくこと。いじめ撲滅に向けて「いじめ防止教育プログラム」も活用し生徒がより安心して学校生活を送ることができるようにすること。教員の意識を高いところで維持していくことが課題である。	SNSを使いたいじめやトラブルが心配である。啓発のチラシなどを配布した時などに意図的にアンケートを取ってみてはどうか。家庭でのルールがどの程度なのか、どんな使い方をしているのか保護者の確認は必要である。やり取り帳については担任とのコミュニケーションツールとしてうまく機能している面もあるのでコメントを書くのは負担になるが他の仕事を削って時間を確保してはどうか。
		様々な行事に主体的に取り組み、達成感を味わい、自己肯定感や自尊心を高める	運動会や合唱コンクール等の学校行事や委員会・係活動に主体的・積極的に取り組めるよう指導する	/	4 [4]	/	4 [3]	教員の指導や取り組む姿勢を大切に、生徒へ日々の指導においても自分たちで考えさせて活動させるようにする。生徒が主体的に活動したと実感できる指導を今後も工夫・研鑽し、より質の高い、皆が誇れる学校を目指していくことが課題である。	二大行事として生徒が取り組む姿勢が学年の進行とともによくなっている。下級生が上級生の姿を見て確実に成長していることがわかる。生徒主体の運営と主体的に活動できる場面を確実に設定して、今後も成果をあげていって欲しい。
信頼される学校	特色ある教育活動を推進し、地域や小学校から信頼される学校を創造する	学区内小学校との交流を推進するとともに、地域とも連携し、安全で安心できる地域づくりに貢献する	地域との交流活動や、学区内内の小学校との間接的・直接的な交流を積極的に行う	/	4 [4]	/	1 [3]	教員・保護者の感覚と生徒の感覚のズレが大きいので、国分寺調査や職場体験など地域で学ばせていただいている活動も交流の形の一つであることを認識させる。小学校との連携については生徒会と児童会の交流や作品展示等の目に見える形になっているものも交流と捉えていないことが課題である。	生徒にとっての交流なので個人の意識として捉えていいのではないかと。学校周辺の雪かきをしたこと地域の方からお礼の電話をもらった。地域とのつながり、地域のためにしている活動を生徒に気づかせ実感できるような評価にすべきである。自分たちの活動に対するリターンがあると意識できるのではないかと。商店街でも中学生と関わる場面を何か作れたらと思う。
		特別な支援を要する生徒の指導を全校体制で行うとともに、特別支援教育に関する情報を保護者・地域に積極的に発信し、理解を深める	ブログ、ホームページを充実させるとともに、教育活動の成果を学区内小学校へ積極的に発信する	/	3 [4]	/	4 [4]	学校ホームページや学校ブログ、各種便りなどで二中の日常生活や行事、各学年の活動の様子などを積極的に地域・保護者に発信していく。また、各情報媒体の内容もさらに充実させ地域・保護者への理解が深まるようにしていくことが課題である。	ブログによって日々の活動が発信されるのは保護者にとって学校を身近に感じる事ができているのではないかと。各種便りも含めて学校の様子や情報を発信して、地域や保護者への理解がさらに深まるようにしていって欲しい。

[]内の数値は前年度

回収率 : 保護者 86.7 % 生徒・教員100%